令和７年１１月２１日
（２０２５年）

保 護 者 の 皆 様

吹田市立山田第二小学校
校　長　　熊野　厚博

令和７年度　全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、６年生を対象として「令和７年度全国学力・学習状況調査」を実施し、７月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり､教科も国語と算数と理科に限られ、測定されたものは学力の一部であって、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった６年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

１．教科に関する調査の分析

●国語《概 要》

・ほとんどの項目において全国値を上回っており、良好な結果であった。
・基礎的・基本的な国語に関する知識・技能が身についていると考えられる。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

◎「話すこと・聞くこと」領域

必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題において、全国値を上回っている。しかし、インタビューの様子を読み、発言の目的として適切なものを選択する問題において、全国値を下回った。話の内容や意図を正確に捉えることに課題が見られた。

◎「書くこと」領域

文章の構成や図表などの用い方として適切なものを選択する問題において、全国値を上回った。目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題においても、全国値を上回った。

◎「読むこと」領域

文章の構成を捉えて要旨を把握し、適切な内容を選択する問題においては、全国値を上回った。しかし、文章を読んで納得したことを、資料と結び付けてまとめる問題では、正答率は全国値を下回り、無回答率も１５％であった。

◎「知識及び技能」領域

学年別に漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題において、全国値を上回っている。情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表

し方に関する問題においても、全国値を上回った。

●国語における成果と今後の改善点について

１４問中１２問で全国値を上回った。特に、文の中で適切な漢字を書く力が定着しているため、今後も継続していきたい。 読むことの領域では、正答率が低い傾向が見られるため、この領域の指導に力を入れていく。資料をもとにして考えを書く問題では課題が見られたため、自分の考えを文章で表現する活動を増やしていく必要がある。

●算数《概要》

・ほとんどの項目において全国値を上回っており、良好な結果であった。

・基礎的・基本的な算数に関する知識・技能が身についていると考えられる。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

◎「数と計算」領域

基本的な四則計算はできている。異分母分数の計算は９２%の児童が正答しており、分数の計算の定着が見られた。しかし、分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、共通する単位分数の幾つ分かを記述する問題では、正答率が２３%と低く、無回答率の多さも目立ったため、課題が見られた。

◎「図形」領域

いずれの問題においても全国値を上回っている。しかし、五角形の面積を二つの図形に分割して求める方法を記述する問題は、正答率が４０%となっており、課題が見られた。

◎「測定」領域

はかりの針が指す目もりを読み取る問題では、正答率は６０%であり、全国値とほぼ同じであった。

◎「変化と関係」領域

問題を解決するために必要な数量の大きさを見いだし、求め方を記述する問題では、全国値を１０%以上上回った。しかし、増量後と増量前を比較し、何倍になっているかを表す問題では、正答率が低く、割合の理解に課題が見られた。

◎「データの活用」領域

グラフや表からデータを読み取る設題が３問あったが、いずれの問題においても全国値を上回っている。必要な情報を読み取る問題においては正答率が高く、学力の定着が見られた。しかし、グラフのどこに着目して判断したのか理由を記述する問題においては、正答率は３３%となっていた。

●算数における成果と課題と今後の指導改善点について

１６問中１５問で全国値を上回っている。算数への関心・意欲・態度は比較的高く、出題された学習内容についても基礎的なことについてはおおむね理解し、答えることができている。だが、言葉や数を用いて記述する問題に課題が見られたため、記述のある問題を解く機会を増やしたい。また、どのようにして答えを求めたのかを書く活動を確保していく必要がある。

●理科《概要》

・ほとんどの項目において、全国値とほぼ同じ、もしくは上回る結果であった。
・基礎的・基本的な理科に関する知識・技能が身に付いていると考えられる。

●理科《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

◎「エネルギー」を柱とする領域

身の回りの金属について、電気を通すか、磁石に引き付けられるかといった性質に関する問題では、全国値と同様に本校でも正答率が１０％と低かった。また、乾電池を直列につなぎ、電磁石を強くするものを選択する問題では、全国値を下回る結果となった。

◎「粒子」を柱とする領域

水の温まり方や状態の変化に関する問題では、全国値とほぼ同じ結果であった。一方、実験結果から考えられることについて、当てはまる言葉を記述する問題では、全国値を下回る結果となった。

◎「生命」を柱とする領域

植物に関する４問とも全国値を上回る結果であった。種子の発芽の結果から発芽の条件を見出す記述式の問題では、全国値は上回っているものの、無回答率が７．５％と高いことが課題である。基本的な知識は定着しているため、今後は実験結果から考察する力を高めていく必要がある。

◎「地球」を柱とする領域

気温の変化や海水面の上昇に関する問題では、全国値をやや上回る結果であった。一方、土の粒の大きさによって、水のしみこみ方に違いがあるかを考察する問題では、全国値をやや下回る結果も見られた。

●理科における成果と課題と今後の指導改善点について

１７問中１２問で全国値を上回っており、理科の学習の基礎的な知識はおおむね定着していることが分かった。一方で、記述形式の問題や実験結果を考察する問題において、無回答率が高く、課題が見られた。今後は、予想を理由づけて説明する力や、実験結果から考えられることを文章で表現する力を、さらに高める活動を取り入れていく。

２．生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【規則正しい生活習慣】

「朝食を毎日食べている」９４％、「毎日決まった時間に起床している」９３％であり、どちらの結果も全国値よりやや上回っており、「毎日決まった時間に就寝する」８７％は全国地よりも５％上回っている結果であった。規則正しい生活習慣は身についていることがわかる。

【自己肯定感】

「自分には、良いところがあると思いますか」という項目では、９１％の児童が肯定的な回答をしており、全国値と比べてもやや上回っている。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という項目に対して９４％で肯定的な回答が多く、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」項目に対しても肯定的であり、全国値と比べてもやや上回っている。いじめは許されないことや、友達を大切にしようと思う気持ちが持てている児童が多いことがわかる。しかし、「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の項目は８２％の児童が肯定

しているが、全校値よりもやや下回っているところが少し気になる。
「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目は全国値よりも上回っており、児童が安心して学校に通う環境はできていることがうかがえる。

【家庭生活の様子・家庭学習】

「学校の授業時間以外に普段どのくらいの時間勉強していますか？」(塾や家庭教師、オンライン授業も含む)という項目に対しては「３時間以上」「２時間以上」と答えた児童が全国値をやや上回っている。

また、「読書は好きですか」という項目に対しては約８５%の児童が肯定的な回答をしており全国値とくらべても大きく上回っている。昨年度までの GTM などの読書活動の取り組みにより、読書が好きな児童が増えていると考えられる。

【学校生活・授業】

「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目では、全国値はやや下回っているものの８２%以上の児童が肯定的な回答である。

「算数の授業は得意ですか」という項目では、６３%の児童が肯定的な回答で全国値をやや上回っている。ただ、「算数の勉強は好きですか」という項目は肯定的な回答が４６%で全国値も下回っている。理科や国語も「勉強が好き」という項目はいずれも全国値を下回っており、得意ではあっても興味を持って自ら学習を深めるような機会が少ないことがうかがえる。また「算数の授業で学習したことが、将来社会に出たときに役に立つと思いますか。」という項目についても８５%が肯定的な回答をしているもの、全国値を下回っており、学校での学びがこれからの生活につながるイメージがあまり持てていないことがうかがえる。

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という項目では６９%の児童が肯定的な回答ではあるが、全国値を下回っている。

「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という項目では、全国値とほぼ同じ８３%の児童が肯定的な回答となっている。詳しく知りたいと思えた時には自ら学ぶが、自分と違う意見を受け入れたり、先のイメージが持ちにくい学習については興味を持ちにくい傾向がうかがえる。学習の中で異なる意見を聞く機会を増やしたり、学校での学習がどのようにこれからの生活につながるかという具体のイメージがもてるような橋渡しを継続して行う必要がある。

「５年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」という項目では全国値とほぼ同じではあるものの肯定的な回答が４５%となっていた。より積極的に ICT 機器を授業で活用していく必要がある。